

平成28年 萩井会長年頭挨拶 要旨

平成28年1月4日

NHK広報局

明けましておめでとうございます。

今年、皆さまの健康を心からお祈り申し上げます。

私が会長に就任して、この2年間で多くの地方局ならびに現場の皆さんとお話する機会を持つことができたが、NHKの最も大きな財産は「人」だと感じている。質の高い人の力をフルに発揮しながら、NHKとして次は何をやるか、課題を持ちながら進んでいく必要がある。放送を取り巻く環境が変わってきていることは皆さん気付いているだろうし、私はこの節目に、皆さんと力をあわせて、もっともっとNHKの力を引き出し、より強力な公共放送へと進化させたい。私にとっても3年目は大きな節目だが、今年はNHKの大きな飛躍な年にしたい。そのためには、視聴者の皆さまの視点を大事にして番組をつくってほしい。奢ることなく常に視聴者の目線を外さずに番組をつくっていくことが必要だ。最近ではテレビ離れが言われているが、同時にテレビほど魅力的な媒体はない。テレビについてそれほど悲観的な考え方はしていない。むしろ、どうやったら見てもらえるのかということを中心に分析し、どうやって実行していくか、番組にどうやって反映させていくかがすごく大事だと思う。ぜひ皆さんと一緒に追求していきたい。

残念ながらNHKグループでは昨年、不祥事が間をあけずに起きた。やはりNHKには、グループ全体としての職員の誇りというものがある。そういう誇りが、人間の行動を間違った方向に行かせないことにつながると思う。NHKの職員にぜひお願いしたいのは、世界に冠たる放送局の誇りを大切にして仕事をしていただきたいということ。それと、やはりもう一度、抜本的に対策を講じる必要がある。今から皆さんと話をしながら、どうすればいいのかを早急に考えて実行に移していきたい。いわゆる「クロ現問題」については、残念ながら、最終的にはBPOからも重大な放送倫理上の違反があったと指摘された。我々はNHKの誇りをベースに、今後こういうことが起こらないようにぜひ一緒に努力していきたい。NHKは本当に事実を正確に伝えるということを期待されている。日々の放送において、放送法に則って、事実に基づき公平・公正、不偏不党、何人からも規律されないということを頭に強く置きながらやっていく。我々は受信料で仕事ができているということは言うまでもない。視聴者から「NHKにお金を払うのは意味がない」と思われるようになったらおしまいだ。我々はそこしかない。もう一度原点に立ち返り、やっていこう。ぜひ皆さん、そういう気持ちで一緒にやっていただきたい。

私は最近、視聴率のこともよく言っている。視聴率は大事ではない、質の方が大事だという考え方には必ずしも反対しているわけではない。しかし、結果として私は質も視聴率も両方を要求したい。昨年、59歳以下の現役世代のNHKの視聴率、これが100傑の中に1つか2つしか入っていない。「朝ドラ」がトップで入っているが、ニュースにしても、入ったとして100傑の中の終わりのほうで、NHKの誇りとしてはなかなか許容しがたい。なぜ我々のニュースや報道が、あれだけ正確を期し、質の高い報道をしているのに、ほかの民放の報道番組より低いのかについても謙虚に反省する必要があるだろうと思う。ぜひ、どうやったらみんなに見てもらえるかということを中心に分析し、もう少し突っ込んだ理解をし、それに向かって改善をしていきたいと思っている。

話は変わるが、よく言えばNHKの伝統ではあるが、あまりにも今までやってきたことを踏襲し過ぎていないか。確かに今までやってきたことを繰り返していると大事には至らないし大きな失敗はないが、これが漸減傾向とでも言うか、少しずつ下がって、気が付いたら深刻な問題になっているということは否めない。新しい仕事に、新しい仕事のやり方にチャレンジしていただきたい。ではどうすればいいのか。発想とし、「私はこの仕事をやっている」と思ったとしても、自分がいなかったらどういうことになるか考えてほしい。意外と組織は困らない。私は皆さんがやっておられることが、どうでもいいことだとは思わない。しかし、そういう発想にたってくださいと。そうした場合に自分がやっていることは無駄じゃないかと、本当に思えば捨てたらいいと思う。そして新しいことにチャレンジしてもらいたい。NHKの仕事のやり方の一つとして、「こんなに人が関わっているのか」と見えることがある。本当にそれぞれが役割を持って仕事をしているのか。新しい発想で仕事を合理的に進めていくことによって、もっともっと新しいことが出来る状況かもしれない。仕事のやり方を是非、考えていただきたい。新放送センターのことで、若者プロジェクトからいろいろなことを聞かせてもらっているので、随所に意見を生かしていきたい。若い人たちがそう思うなら、「Do it やりなさい」といいたい。アイデアを出しても、実行を伴わないアイデアは意味がない。「やろうよ」ということを常に考えていてほしい。

ヨーロッパの放送局のトップから、NHKとBBCが一番フェアであると言っていたことに意を強くしている。今後とも正確な情報を発信して、多彩な番組を作り、国際社会の日本への理解を深めていくこと、日本の国というものを理解してもらうことが我々の重要な使命の一つである。富士山であるとか、京都、東京、歌舞伎などいろいろなことが知られているが、本当に大事なことは、「歌舞伎ってなんだろう」とか、文化の源にあるものは何か、何がこうして日本の文化を作ったのか、こういうことも必要と思う。

今年はいよいよリオでオリンピック・パラリンピックが行われる。NHKはスーパーハイビジョンで試験放送をすることはご存じのとおりだ。加えてパラリンピックの放送の充実に取り組む。健常者のスポーツ以上に激しいものもある。パラリンピックの競技を特集するのではなく、普通のスポーツとして取り組んでいきたい。録画だけでなく中継をすることになっている。2020年の東京大会を視野に入れて、パラリンピックに対して考え方を抜本的に変えるときに来ている。

営業成績については、皆さんの努力のおかげで日に日に上がってきている。コツコツした努力の積み重ねである。そして今、「ターゲット80」も、皆さんの努力のおかげで、先が見えるようになってきた。衛星放送の契約割合50%も、1年前倒しぐらいの勢いで達成できる状況にもある。営業成績は我々の収入源のすべてで、これがないと番組も作れない。受信料についてはいろいろ議論もあるが、これについてはしっかりと見据えながら、我々も議論していくし、値下げすべきは値下げすべきだと思う。しかし我々は同時に今、新放送センターの問題も抱えており、老朽化した地域局の建て替えもある。このあたりをもう少し精査したうえで、今後の受信料制度を考えていきたい。今後とも営業成績を上げて、本当に視聴者の皆さまに還元していくという姿勢は貫いていかなければいけない。

働き方についても考え方を改めていただきたい。日本は高齢者がどんどん増えており、若い層が高齢者を支えていかなければいけないと言われているが、皆さん、65歳くらいまでは最低、元気に働ける。70歳を越えても元気な人も多くいる。人口が減っていき、若者が減っていく中で、何をしなければならぬのかというと、60歳以上の方ならびに女性、こういう人たちに本当

に現役でばりばり働いてもらう必要があるというのが日本の一般的な現状だ。安心してまずは60歳まで、そしてその後どうしていくかは今一生懸命考えている。日本の状況を考えると、そのようなことも積極的に施策を進めていきたいと思っている。新放送センターの建て替えも既定方針どおり、今年の夏までに基本計画をまとめる。今から50年、60年というプロジェクトで、実際に出来上がることまで考えると70、80年のことになる。若い皆さんの知恵を大いに拝借して、アイデアを募って参考にしていきたい。

締めくくりに言いたいことは一つ、NHKを変えていきたいと思います。そのためには、いろいろな発想の仕方がある。役員、管理職はいうに及ばず、職員一人一人がどう変えていくのかということも懸命に考えていただきたい。もちろん会長としてNHKを変えていくための施策は行っていくつもりだ。最後に50年前のエピソードをひとつ紹介しておきたい。1964年の東京オリンピックで衛星を利用した世界で初めての生中継が行われた。実は、衛星の打ち上げ失敗等があり、衛星はオリンピックの2か月前の電話通信用に打ち上げられた衛星しかなく、それはテレビ中継用ではなかった。しかしNHKの技術陣が徹夜の作業で問題を解決して、開催3日前というぎりぎりのタイミングで中継の準備を整えたと聞く。放送を取り巻く環境は激変しており、いろいろな意味でのチャレンジ精神が今、NHK職員一人一人に問われている。東京オリンピック・パラリンピックまでには4年以上あるが、この1年、皆さんと一緒に公共放送から公共メディアに進化するための基礎を築いていきたい。今年が、名実ともにNHKが世界一に向かって飛躍するための挑戦と改革の年となることを心から願って、私の年頭のお願いと挨拶とさせていただきます。

(以上)